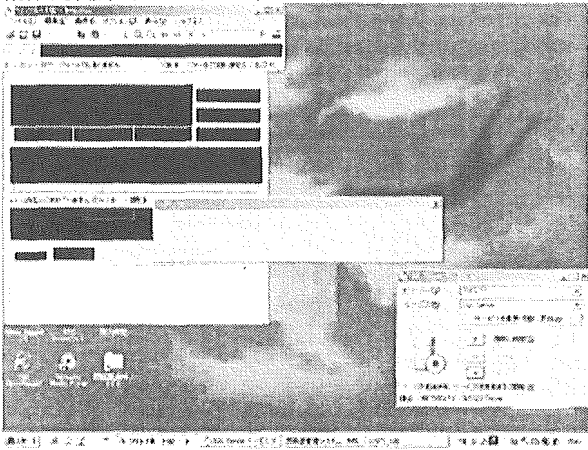


(七) 起因菌種性リストでカンジダ、喀出血、と下痢の組み合わせが検索されているが、
 ほとんどは、集計に繋がらないと考えた。

項目名	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目
検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目
検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目

(ソ) 自動入力の動作中にSQLサーバーを停止すると、以前はすぐに、SQLサーバーが停止
 しているので動作を中止する旨が表示されたが、このバージョンでは、アプリの動作
 は作業に遅くならず、エラーメッセージも表示が少なく済んだ。SQLサーバーを
 再開すると、漸くメッセージが表示され、アプリが終了する。



II. SHIPL V130R x 利用の実習、意見交換

(ア) 採菌株からMRSAなどについて初回の検出から、検出されなくなるまでの経過を追っ
 ているがその集計が出来ないかという意見があった。藤本から、監視する菌を問題菌
 に登録し、院内感染状況マップを用いてリストを出し、ソートの条件で氏名、提出日、

問題菌を指定することで目的のリストが得られることを示した。既存の集計では経過
 に菌量の情報を含めているようであった。菌量 (JANIS-SHIPL) のフォーマット、項
 目名「菌数」) を表示可能になれば、現在と同様の集計を行うことが出来る。

項目名	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目
検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目
検査項目	検査項目	検査項目	検査項目	検査項目

(イ) 採菌株に、院内で監視している菌を登録して頂いた。届け出が義務づけられてい
 感染症、院内感染症の起因菌として監視すべき菌などが混在したリストを短時間で登録
 することが出来た。院内感染状況マップと組み合わせで使い、「これはいい」という評
 価を頂いた。

(ウ) 採菌株から、「動作が安定しているのに驚いた。」とのご意見を頂いた。

(エ) 菌の異常集積で、施設ベースラインレイトで *Proteus mirabilis* が指摘されていた。
 附属している default のベースラインレイトで検索するとより多くの集積が見られた。
 附属している default のベースラインレイトと比べると当該菌のベースラインレイト
 がすでに高めであることも分かった。引き続き菌の異常集積の自動検出などによる取
 扱が必要であると考えた。

全体として、院内感染対策を効率化することの出来る機能が実現されていると考えた。

平成18年2月10日(金)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

議事録

議題	中小規模病院感染症監視システム (SHIPL) 墨田中央病院様で の動作検証、開発打ち合わせ	開催日	2005年4月25日
資料		時刻	13:00~16:30
出席者	群馬大学: 藤本先生 墨田中央病院: 事務次長・太田様、検査室・池田様、検査室・片山様 フィンガリング: 三輪	場所	墨田中央病院 検査室

1. 各機能の使用状況に関する調査と、その対応及び不具合確認
 (1) 多岐に渡るため、別添資料「墨田中央病院事項 050426.xlsx」に詳細を記載した。
2. 検査室での利用状況に関する調査、及び対応
 (1) 以下のデータが検査会社から届いておらず、検査室担当者 (片山様) が手入力で補充していた。
 (A) 生年月日
 (B) 診療科
 (C) 抗菌薬投与の有無
 (D) 発熱・発疹・下痢
 (E) 白血球数、白血球検査日、CRP 定量、CRP 定量検査日等感染症データ
 このうち、(B) と (C) は依頼依頼に記入欄があり、(D) 項目も枠外では記入可能となっていた。これ
 についてはフィンガリング及び藤本先生より検査会社である江東微研に問い合わせ、対応するよう
 指示を行うこととした。
 (A) の生年月日についても、墨田中央ではエンボスによる記入および和暦利用のために「変換でき
 ない」との回答を検査会社より受けていたが、これらについても対応できない理由を検査会社に確
 認する。
 (2) 上記の入力作業に関して、検査室担当者の通常業務の支障とならないよう、作業に従事することを
 指導した。
- (3) 以前に要望のあった「カルテ番号での検索」に関して再確認した。検査室担当者は現行機能の「患
 者 ID 入力による生年月日等の自動入力」を利用したく、ID 欄へのカルテ番号入力を希望しており、
 それを指して「カルテ番号での検索」と呼んでいた。
 カルテ番号は患者に対して常に 1 であることを検査室担当者に確認できたので、ID 欄にカルテ番
 号を入力できないか、フィンガリングより検査会社に対して相談することとする。(尚、現時点
 での ID 欄への入力内容を確認したところ、ID 欄には検体番号が入力されていた。)
- (4) 検分菌数が非常に多かった (約 7000 月)。検分菌種に確認を行い、異常であることを確認した。
 (5) 検査室がすべて K10 ディスクになっていた。検査室様では内容を確認できなかった。江東微研様に
 確認をとることにした。
- (6) 院内感染マップに検体が複数表示される現象が見られた。関係マスターの設定に問題があるこ
 とが分かった。この部分の設定は検査会社様が行っており、設定法に理解があることが予測された。

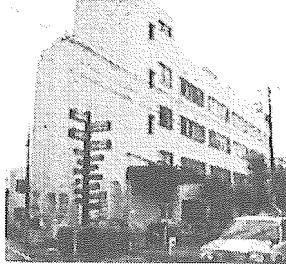
3. 今後の改修要望
 (1) 年間推移表、感染状況マップ、集計表で用いられる問題菌の判断基準について、荒川先生決定によ
 る指標と、吉谷先生による指標、および一山先生による指標を任意に選択できるように検討する。
 その場合、指標の数は予備も含めて 5~6 種類程度を用意することも検討する。
 (2) 集計表の直視排他について、年間推移表や異常集積と同様に「患者単位」「検体単位」「JANIS
 母館」の選択ができるよう検討する。
 (3) 集計表で、年齢不明 (生年月日が入力されていない) データでも年齢別分離菌で出力できるように検
 討する。
4. 検査結果データに関して
 (1) 山口社のシステムの検討会でデータを用いることを、念書を交わすことで同意を得、4/26 時点でのデー
 タコピーを行った。
5. 今後の作業に関して
 (1) 前回打ち合わせで提示された「感染情報レポート」「PDI 解析」の不具合、及び今回打ち合わせで
 提示された不具合に早急に対応し、修正版を各施設に配布する。
 (2) 前回及び今回打ち合わせで提示された要望及び改修点に関して、フィンガリングより作業のスケ
 ジュールを提出し、実作業範囲について研究班先生方と相談する。
- 以上
- ※「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究(H15-医療-072) 平成
 16年度研究報告書」41ページ以降を参照する。

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』に係る、中小規模病院感染症監視システム開発の打ち合わせ。

日時:平成 17 年 7 月 4 日(月) 午後 2 時から午後 4 時
 場所:東京都墨田区京島 3-67-1 医療法人社団 墨田中央病院 検査室
 出席者:墨田中央病院 小嶋 院長、太田 次長、検査室 片山 技師、群馬大学 藤本

議事等:

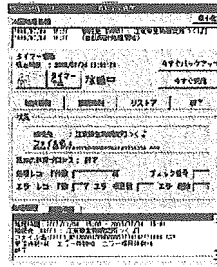
- 1) 墨田中央病院感染症監視システムの稼働状況調査
- 2) ID 送信開始後の動作検証
- 3) 活用について調査、お打ち合わせ
- 4) その他 (過去データの利用について)



システムの検証に先立って、小嶋院長、太田次長にお時間を頂き、菌の異常集積のアルゴリズムの検証を墨田中央病院様の過去のデータを用いて行い成果を学術論文等に発表することについてお許しを頂いた。7 月 11 日の検査会社株 HL7 V3 説明会においてデータを利用させて頂く件についても十分に取り扱いを注意して、①施設名を隠蔽する。②東邦大学内の施設でクローズドな状態で行う。③参加は開発に関わっている検査会社だけ。④開発を目的とした利用等を条件に利用を許可して頂いた。今日、感染症対策が直面している問題点などについて資料を用意してお話しをさせて頂いた。多大なご協力に深く感謝します。

- 1) 墨田中央病院感染症監視システムの稼働状況調査
- (ア) 自動入力(通信)機能

毎日の動作が正常に行われていると考えた。ログの最初の部分にエラーが記録されていたのが唯一気になった。



自動進捗でエラー発生
 2005/07/01 15:28
 バックアップが完了しました。
 処理時間: 2005/07/01 15:30 - 2005/07/01 15:31
 接続先: 00001: 江東衛生研究所つくば

- 2) ID 送信開始後の動作検証

(ア) 検査データ修正・検索画面でカルテ番号が ID に入ることになったことが確認できた(6 月の通信から)。しかし、同じデータが検体番号としても送られていることが分かった。

ID	検体番号	カルテ番号	カカ氏名	検査項目	検査結果
00001	00001	00001	00001	00001	00001
00002	00002	00002	00002	00002	00002
00003	00003	00003	00003	00003	00003
00004	00004	00004	00004	00004	00004
00005	00005	00005	00005	00005	00005
00006	00006	00006	00006	00006	00006
00007	00007	00007	00007	00007	00007
00008	00008	00008	00008	00008	00008
00009	00009	00009	00009	00009	00009
00010	00010	00010	00010	00010	00010
00011	00011	00011	00011	00011	00011
00012	00012	00012	00012	00012	00012
00013	00013	00013	00013	00013	00013
00014	00014	00014	00014	00014	00014
00015	00015	00015	00015	00015	00015
00016	00016	00016	00016	00016	00016
00017	00017	00017	00017	00017	00017
00018	00018	00018	00018	00018	00018
00019	00019	00019	00019	00019	00019
00020	00020	00020	00020	00020	00020

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 16 / 108

患者情報入力画面のスクリーンショット。ID、カルテ番号、カカ氏名、検査項目などが表示されている。

(イ) 患者様名でソートしたところ、これらの同じデータは、以前カルテ番号として送られていたものであることが確認された。

検体番号	ID	カルテ番号	カカ氏名
20050624720	20050624720	000998	000998
20050621614	20050621614	000998	000998
20050630768	20050630768	000998	000998
20050630768	20050630768	000998	000998
000998	000998	000998	000998
20050621493	20050621493	0042811	0042811
20050621494	20050621494	0042811	0042811

(ウ) 検体番号は検体に対してユニークなものとしてキー項目に使われている。同じ検体番号のデータはつねに後から送られたもので置き換えられることになっている。カルテ番号を検体番号に入れてしまうと、1 患者、1 検体分のデータのみデータベースに残ることになる。早急に修正が必要であると考えた。また、同じ江東衛研様のきぬ医師会病院様の状況も至急確認が必要であると考えた。

(エ) 一方、この状態(ID=検体番号)であると、重複排除の方法に寄らず同じデータが集計されると予測したが、菌の異常集積において集計法(患者単位と検体単位)によって値に違いが見られた。

現在の表示: 患者単位

レベル	検体日	集計	種	菌名	検数	検体数	検体数/集計	集計	集計
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	25	4	0.00002297
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	14	14	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	10	4	0.00003934
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	21	14	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1114	Streptococcus agalactiae	20050627-20050628	006191	0	4	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1100	Enterococcus	20050627-20050628	006191	25	4	0.00000000

現在の表示: 検体単位

レベル	検体日	集計	種	菌名	検数	検体数	検体数/集計	集計	集計
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	25	4	0.00002297
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1104	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	14	14	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	10	4	0.00003934
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1101	G-Streptococcus	20050627-20050628	006191	21	14	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1114	Streptococcus agalactiae	20050627-20050628	006191	0	4	0.00000000
LEVEL 1	2005/07/01	15-H	1100	Enterococcus	20050627-20050628	006191	25	4	0.00000000

集計法に問題がある可能性があり、確認が必要と考えた。

(オ) ID の問題は深刻であり、他の検証は動作を確認することのみにとどまった。

- 3) 活用について調査、お打ち合わせ

片山技師にデータに問題があったことを説明。場合によっては全データの再送が必要になることがあり得ることを伝えた。片山技師から発熱、下痢、発疹を日計表に入力した場合の利用法、効果について質問があった。意義について説明を行った。看護側から十分な協力が得られない状況がある様子であったので無理をしないように伝えた。

- 4) その他 (過去データの利用について)

冒頭のとく、小嶋院長、太田次長よりご許可を頂いた。

以上、

平成 17 年 7 月 4 日(月)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 17 / 108

Shuhei Fujimoto

最出人: Shuhei Fujimoto (shufm01@med.nagano-u.ac.jp) | 2 Shuhei Fujimotoの代理
送信日時: 2005年12月3日 土曜日 12:00
内容: Tanaka Yoshiaki (NOSS corp.) | yuimdc@shiba-riku.com
CC: tsujino@shiba-riku.com 古谷 信彦 (fujino@med.tokai-u.ac.jp) 山口 隆三 (hatake@med.tokai-u.ac.jp) K.Yoshimura (NOSS corp.)
件名: 豊田中央病院様の見分

御多用中のところお世話になります。
豊田中央病院様の状況を見分致しましたので報告申し上げます。
システムの見分は先立って、利用が進まない状況について昨日の日高病院様からのご発言(別途まとめて連絡申し上げます。)について説明をした上で、豊田中央病院様での事情を伺いました。これらについては、他施設様のご意見とともに後日報告させていただきますが、その中で、出力についてのものがあり、これらについては、ちょっとした改良で対応できるようですので、不具合等の報告の前に述べます。豊田中央病院様では、外部からの指摘に基づいて、三種の菌類を菌類対策委員会に提出しています。一つは、菌類情報レポートで対応可能であることがわかりました。残りの2つの内の一つは、全ての菌類情報について患者さんの氏名や年齢、材料、検出菌種を出力したのですが、これは、すべての菌種でなくとも、ある程度問題になるようないわゆる古谷問題図のようなもので良いようです。現在の院内感染状況マップに菌類全体(合計)というボックスを設け、そこをクリックして出てくるボックス(下のもの)

問題箇所 病棟: 4N 2005/11/17
患者ID 患者氏名 年齢 性別 検出菌名 検査材料名
1000001 古谷 信彦 69 男 女 Staphylococcus aureus (MRSA) 肺野面

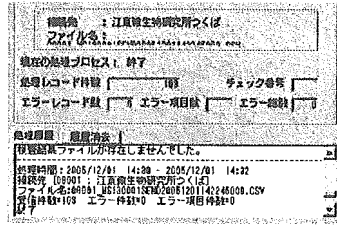
菌類患者数1人 菌数:1

菌々のSS又は結果は、菌針検査結果レポートから確認できます。

菌類のカラムがあって、リストがCSVで出力できれば目的の図になるようです(現在進めている日付を期間で指定できる改修も実現している必要があります)。菌類合計はあった方がよいと考えますので、ご配慮をお願い致します。もう一つは、材料ごとの菌の菌性率です。これは、材料別分層面ではほぼ良いのですが、材料別分層面には検査材料別菌数、あるいは、総検体提出菌数、その内の菌性率あるいは菌性患者数がありませんので、菌性率を計算することが出来ません。グラフでは、年間推移表ですが、こちらは、菌数を指定しても計算を出してしまおうので、用事が足りません。検体別分層面の表の一番下、総検体数(あるいは総検査患者数)などを出さずには困るでしょうか。以上2点ご配慮をお願い致します。

- 1. 自動入力に正常に動作していた。

2006/03/06



2. IDは正しく入力された(2005/5/31以降は全て)

Table with columns: 患者ID, 患者氏名, 年齢, 性別, 検出菌名, 検査材料名. Contains multiple rows of patient data.

- 3. 菌の異常菌種の菌針が行われていない。(この件に関しては本日NOSS田中様より、動作しない理由について説明を受けた。改修を要請した。)

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 22 / 108

Form for selecting search conditions, including date ranges and patient counts.

- 4. 菌の異常菌種の集計が不正。患者単位、検体単位で数が同じ。30日で75検体は豊田中央病院としては、明らかに少ない。(この件も本日NOSS様へ改修を要請した。)

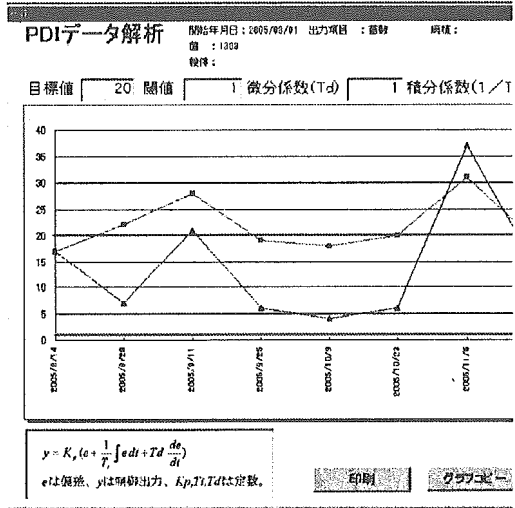
2006/03/06

Table showing search results with columns: 患者ID, 患者氏名, 年齢, 性別, 検出菌名, 検査材料名, 菌数, 菌性率, etc.

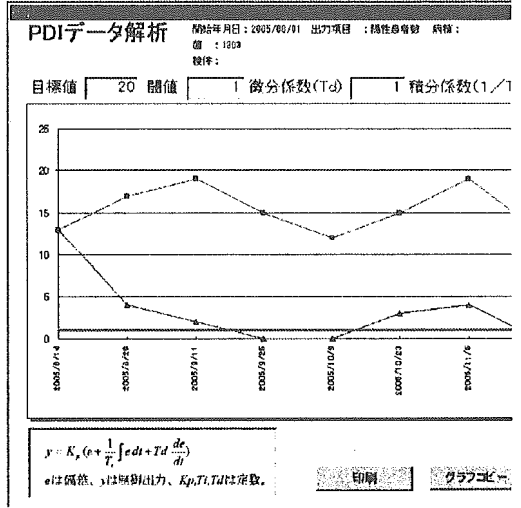
- 5. PIDの菌数、菌性患者数は菌数/菌性患者数になっており、重複の排除が行われているようであった。

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 23 / 108



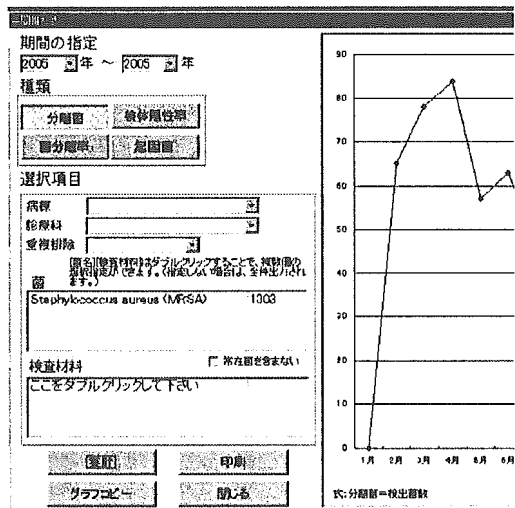
2006/03/08



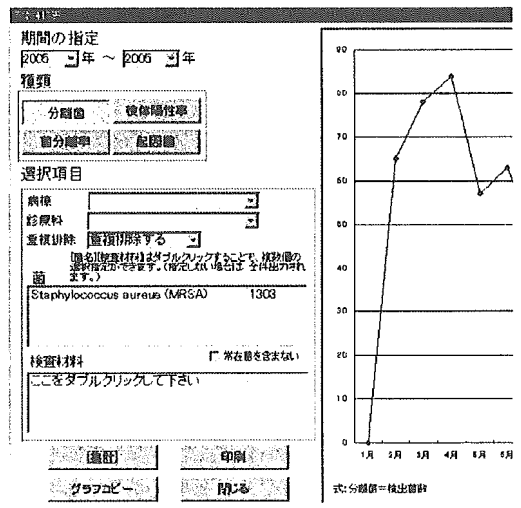
6. 年間推移数の重複排除は他施設同様、機能していない。(この点についてもNOSS様に改修を要請している。)

2006/03/08

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 24 / 108



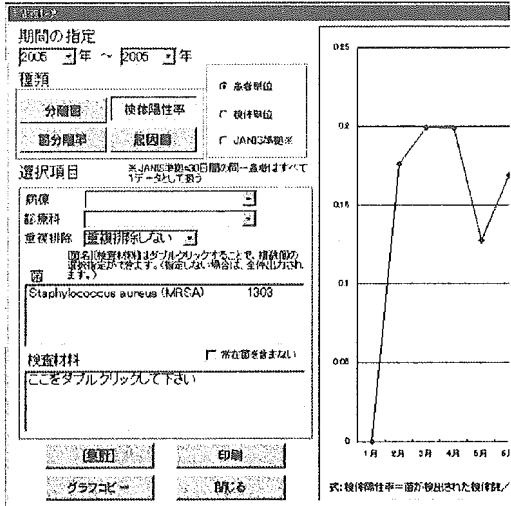
2006/03/08



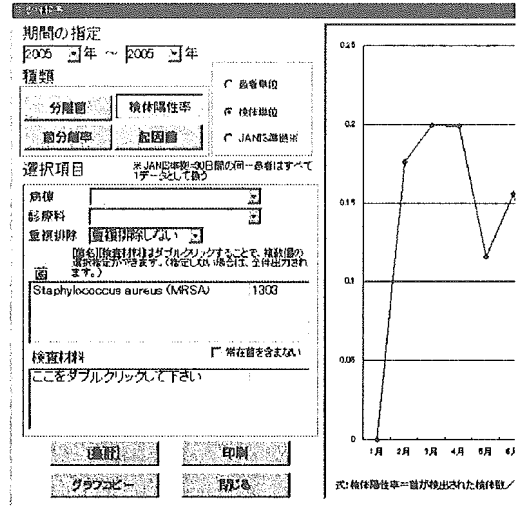
検体菌数についても同様に重複の排除が出来ていない。(さらに、菌数率の場合に患者単位、検体単位、JAMS単位の選択があるが、これと、重複排除の関係が明確でない。同じグラフが表示された。;検体単位+重複排除の場合、選ばれた検体について同じ患者さんからの複数検体を一つに数えると言うこと? (おそらく患者単位と同じ)。患者単位+重複排除はどうなるのだろうか? これまでの経過も含めて整理して下さい。)

2006/03/08

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 25 / 108

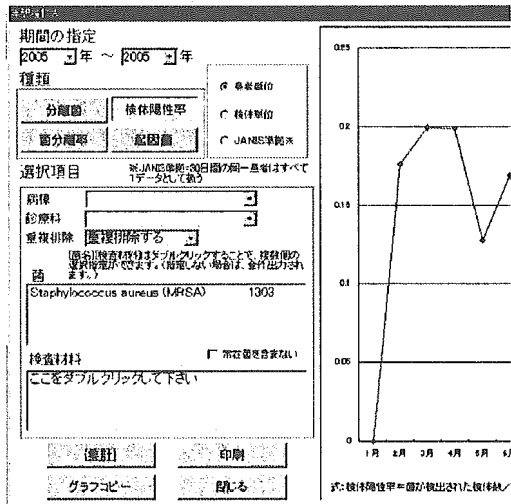


2006/03/06

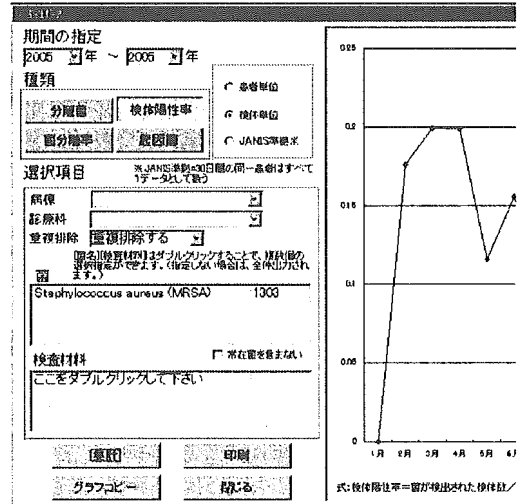


2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 26 / 108



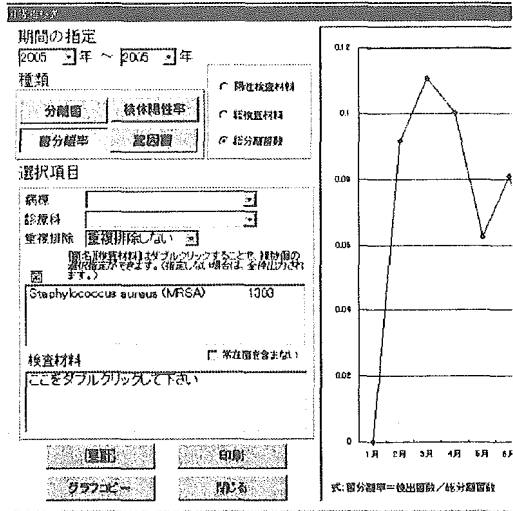
2006/03/06



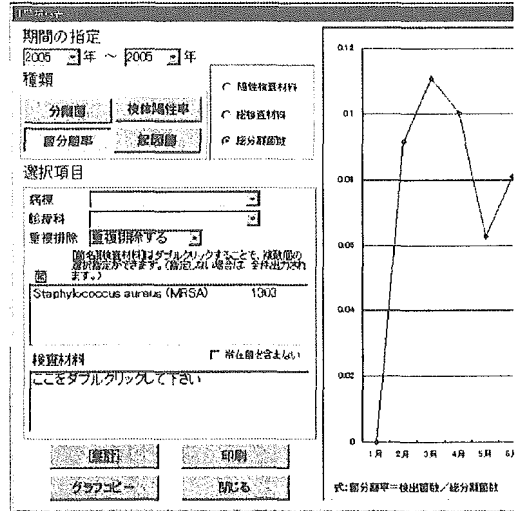
7. 菌分離率も同様である。

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 27 / 108



2006/03/06



8. 集計表の重複排除(同一患者集計方法)が機能していないようである。

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 28 / 108

病種別集計状況		2005年11月～2006年11月		
期間	性別	入院外来	診療科	病種
2005年11月～2006年11月	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
重複排除	重複排除しない	重複排除しない	重複排除しない	重複排除しない
検査材料	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
病	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
集計	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
感受性	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
同一患者集計方法	重複しない	重複しない	重複しない	重複しない
病名	重複未入力	重複未入力	重複未入力	重複未入力
Yeast	0	2F	3F	4F
α-Streptococcus	15	42	79	28
Streptococcus agalactiae	1	8	7	1
β-Streptococcus	0	1	2	0
β-Streptococcus	2	1	2	0
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	1	2	3	0
Enterococcus sp.	5	30	47	8
Staphylococcus aureus	1	1	13	1
Staphylococcus aureus (MRSA)	2	11	30	0
Staphylococcus epidermidis	3	14	7	1
Neisseria sp.	8	26	47	21
Moraxella (Branhamella) catarrhalis	3	1	2	0
Escherichia coli	20	28	22	2
腸管感染症 Escherichia coli	10	0	0	0
Citrobacter freundii	6	4	4	0
Citrobacter diversus	1	0	0	0
Serratia marcescens	0	0	4	0
Enterobacter cloacae	2	3	7	1
Enterobacter aerogenes	0	3	8	0
Proteus mirabilis	0	2	6	0
Proteus vulgaris	0	0	2	0
Morganella morganii	1	1	5	0
Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae	4	7	13	1
Klebsiella oxytoca	1	0	2	0
Aeromonas hydrophila	0	1	0	0
Haemophilus influenzae	2	0	3	2
Haemophilus parainfluenzae	0	0	2	0
Haemophilus parahaemolyticus	1	1	1	3
Pseudomonas aeruginosa	1	46	20	8

2006/03/06

病種別集計状況		2005年11月～2006年11月		
期間	性別	入院外来	診療科	病種
2005年11月～2006年11月	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
重複排除	重複排除する	重複排除する	重複排除する	重複排除する
検査材料	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
病	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
集計	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
感受性	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
同一患者集計方法	重複排除	重複排除	重複排除	重複排除
病名	重複未入力	重複未入力	重複未入力	重複未入力
Yeast	0	1	0	1
α-Streptococcus	15	42	79	28
Streptococcus agalactiae	1	8	7	1
β-Streptococcus	0	1	2	0
β-Streptococcus	2	1	2	0
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	1	2	3	0
Enterococcus sp.	5	30	47	8
Staphylococcus aureus	1	1	13	1
Staphylococcus aureus (MRSA)	2	11	30	0
Staphylococcus epidermidis	3	14	7	1
Neisseria sp.	8	26	47	21
Moraxella (Branhamella) catarrhalis	3	1	2	0
Escherichia coli	20	28	22	2
腸管感染症 Escherichia coli	10	0	0	0
Citrobacter freundii	6	4	4	0
Citrobacter diversus	1	0	0	0
Serratia marcescens	0	0	4	0
Enterobacter cloacae	2	3	7	1
Enterobacter aerogenes	0	3	8	0
Proteus mirabilis	0	2	6	0
Proteus vulgaris	0	0	2	0
Morganella morganii	1	1	5	0
Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae	4	7	13	1
Klebsiella oxytoca	1	0	2	0
Aeromonas hydrophila	0	1	0	0
Haemophilus influenzae	2	0	3	2
Haemophilus parainfluenzae	0	0	2	0
Haemophilus parahaemolyticus	1	1	1	3
Pseudomonas aeruginosa	1	45	20	8

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 29 / 108

検体別分離菌		2005年11月～2005年11月	
期間	2005年11月～2005年11月	咽頭拭液	鼻腔内
性別	指定なし		
入院外来	指定なし		
診療科	指定なし		
病種	指定なし		
検査材料	指定なし		
菌	指定なし		
薬剤	指定なし		
感受性	指定なし		
同一患者集計方法	排除しない		
菌名	等出現		
Yeast	0	0	0
α-Streptococcus	00	103	1
Streptococcus agalactiae	3	1	1
G群β-Streptococcus	0	0	0
G群β-Streptococcus	2	2	1
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	3	1	1
Enterococcus sp.	7	19	1
Staphylococcus aureus	4	7	1
Staphylococcus aureus (MRSA)	10	22	1
Staphylococcus epidermidis	5	1	1
Neisseria sp.	35	67	1
Neisseria (Branhamella) catarrhalis	4	2	1
Escherichia coli	2	5	1
腸管菌原性 Escherichia coli	0	0	1
Citrobacter freundii	0	0	1
Citrobacter diversus	0	0	1
Serratia marcescens	2	2	1
Enterobacter cloacae	0	0	1
Enterobacter aerogenes	0	4	1
Proteus mirabilis	0	0	1
Proteus vulgaris	0	0	1
Morganella morganii	0	2	1
Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae	2	7	1
Klebsiella oxytoca	1	1	1
Aeromonas hydrophila	0	0	1
Haemophilus influenzae	3	3	1
Haemophilus parainfluenzae	0	2	1
Haemophilus parahaemolyticus	4	2	1
Pseudomonas aeruginosa	25	15	1

2006/03/08

検体別分離菌		2005年11月～2005年11月	
期間	2005年11月～2005年11月	咽頭拭液	鼻腔内
性別	指定なし		
入院外来	指定なし		
診療科	指定なし		
病種	指定なし		
検査材料	指定なし		
菌	指定なし		
薬剤	指定なし		
感受性	指定なし		
同一患者集計方法	重複排除		
菌名	等出現		
Yeast	0	0	0
α-Streptococcus	00	103	1
Streptococcus agalactiae	3	1	1
G群β-Streptococcus	0	0	0
G群β-Streptococcus	2	2	1
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	3	1	1
Enterococcus sp.	7	19	1
Staphylococcus aureus	4	7	1
Staphylococcus aureus (MRSA)	10	22	1
Staphylococcus epidermidis	5	1	1
Neisseria sp.	35	67	1
Neisseria (Branhamella) catarrhalis	4	2	1
Escherichia coli	2	5	1
腸管菌原性 Escherichia coli	0	0	1
Citrobacter freundii	0	0	1
Citrobacter diversus	0	0	1
Serratia marcescens	2	2	1
Enterobacter cloacae	0	0	1
Enterobacter aerogenes	0	4	1
Proteus mirabilis	0	0	1
Proteus vulgaris	0	0	1
Morganella morganii	0	2	1
Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae	2	7	1
Klebsiella oxytoca	1	1	1
Aeromonas hydrophila	0	0	1
Haemophilus influenzae	3	3	1
Haemophilus parainfluenzae	0	2	1
Haemophilus parahaemolyticus	4	2	1
Pseudomonas aeruginosa	25	15	1

2006/03/08

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 30 / 108

年齢別分離菌		2005年08月～2005年11月		
期間	2005年08月～2005年11月	～9ヶ月	～1歳	～1歳
性別	指定なし			
入院外来	指定なし			
診療科	指定なし			
病種	指定なし			
検査材料	指定なし			
菌	指定なし			
薬剤	指定なし			
感受性	指定なし			
同一患者集計方法	重複排除			
菌名	年齢未入力			
Yeast	0	0	0	0
Streptococcus sp.	2	0	0	0
α-Streptococcus	23	0	0	0
Streptococcus agalactiae	1	0	0	0
Streptococcus agalactiae	4	0	0	0
G群β-Streptococcus	3	0	0	0
G群β-Streptococcus	0	0	0	0
Streptococcus pneumoniae	0	0	0	0
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	1	0	0	0
Enterococcus sp.	15	0	1	1
Staphylococcus aureus	9	0	0	0
Staphylococcus aureus (MRSA)	12	0	0	0
Staphylococcus epidermidis	12	0	0	0
Neisseria sp.	15	0	0	0
Neisseria (Branhamella) catarrhalis	0	0	0	0
Escherichia coli	105	0	2	2
腸管菌原性 Escherichia coli	34	0	0	0
Citrobacter freundii	24	0	0	0
Citrobacter diversus	6	0	0	0
Serratia marcescens	2	0	0	0
Enterobacter cloacae	17	0	1	1

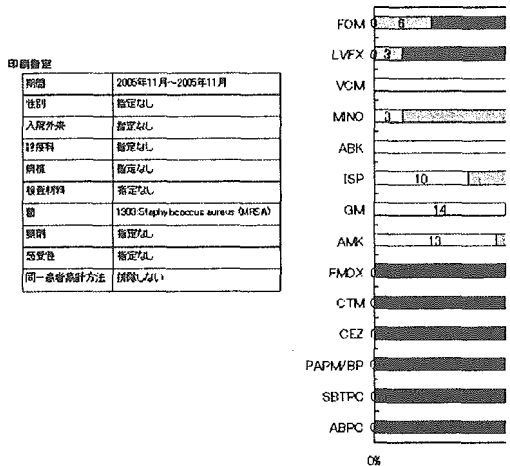
2006/03/08

年齢別分離菌		2005年08月～2005年11月		
期間	2005年08月～2005年11月	～9ヶ月	～1歳	～1歳
性別	指定なし			
入院外来	指定なし			
診療科	指定なし			
病種	指定なし			
検査材料	指定なし			
菌	指定なし			
薬剤	指定なし			
感受性	指定なし			
同一患者集計方法	排除しない			
菌名	年齢未入力			
Yeast	0	0	0	0
Streptococcus sp.	2	0	0	0
α-Streptococcus	23	0	0	0
Streptococcus agalactiae	1	0	0	0
Streptococcus agalactiae	4	0	0	0
G群β-Streptococcus	3	0	0	0
G群β-Streptococcus	0	0	0	0
Streptococcus pneumoniae	0	0	0	0
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	1	0	0	0
Enterococcus sp.	15	0	1	1
Staphylococcus aureus	9	0	0	0
Staphylococcus aureus (MRSA)	12	0	0	0
Staphylococcus epidermidis	12	0	0	0
Neisseria sp.	15	0	0	0
Neisseria (Branhamella) catarrhalis	0	0	0	0
Escherichia coli	105	0	2	2
腸管菌原性 Escherichia coli	34	0	0	0
Citrobacter freundii	24	0	0	0
Citrobacter diversus	6	0	0	0
Serratia marcescens	2	0	0	0
Enterobacter cloacae	17	0	1	1

2006/03/08

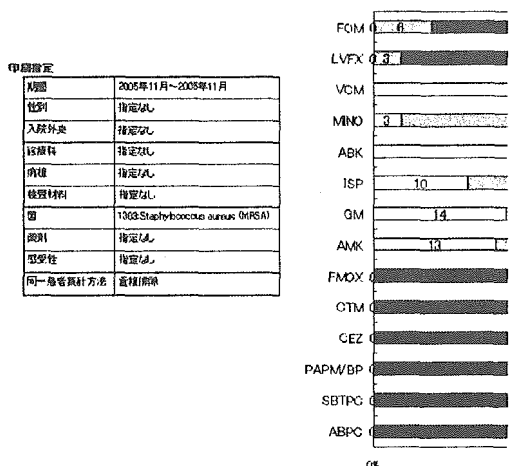
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 31 / 108

菌種別感受性分布 Staphylococcus aureus (MF)



2006/03/08

菌種別感受性分布 Staphylococcus aureus (MF)



9. 菌の異常集積のbaseline rateの集計(各施設の)計算は検体単位のみ?
 下の画面でBaseline rateの算出を行うことが出来る。算出は選やかに行われる。(墨田中央病院様で9月31日から11月30日までを算出してもほぼ1秒程度)
 その後、Baseline Rateの編集画面を開いた所、データは1セットのみ表示された。Baseline rateは検体単位と患者単位があるはずである。

2006/03/08

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 32 / 108

Shuhei FUJIMOTO MD, Ph.D.
 Dept. of Microbiology, Graduate School of Medicine, Gunma University
 sfujimic@med.gunma-u.ac.jp
 phone +81(27)220-7897
 fax +81(27)220-7896

2006/03/08

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)』(中小規模病院感染症監視システム(SHIPL)開発に関する研究)、SHIPL新バージョン(V130R4)の動作確認、利用の実習、意見交換、研究成果とりまとめの打ち合わせ。

日時 平成18年2月10日(金) 午後2時～午後4時20分
 場所 東京都墨田区京島 3-67-1 医療法人社団 墨田中央病院 検査室
 出席者 墨田中央病院 太田事務次長、片山 技師、群馬大学 藤本

I. SHIPL動作状況

(ア) 自動入力、本日再起動されているようであった。正常に動作していた。

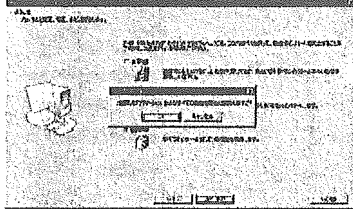
片山技師に伺ったところ、マシン自体がフリーズすることがある(他の作業中)。墨田中央病院様は、Web閲覧他に、当該サーバーを利用している。フリーズしたときには再起動をしている。再起動後には、必ず自動入力を起動するようにしている。そのため、再起動をするとのことであった。

(イ) 旧バージョンのまま、データの入力状況を確認した。IDは、2005年5月30日のデータの一部からカルテ番号が入っており、2005年6月1日からのデータは全て正しく入力されていると考えた。

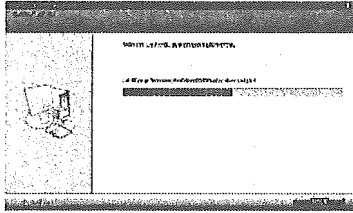
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 33 / 108

患者情報ID	検査情報ID	検体番号	ID	カルテ番号	科名	検査項目	種
0001	0001	20050601702	20050601702	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601704	20050601704	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601704	20050601704	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601706	20050601706	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601708	20050601708	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601710	20050601710	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601712	20050601712	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601714	20050601714	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601716	20050601716	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601718	20050601718	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601720	20050601720	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601722	20050601722	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601724	20050601724	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601726	20050601726	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601728	20050601728	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601730	20050601730	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601732	20050601732	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601734	20050601734	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601736	20050601736	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601738	20050601738	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601740	20050601740	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601742	20050601742	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601744	20050601744	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601746	20050601746	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601748	20050601748	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601750	20050601750	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601752	20050601752	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601754	20050601754	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601756	20050601756	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601758	20050601758	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601760	20050601760	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601762	20050601762	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601764	20050601764	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601766	20050601766	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601768	20050601768	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601770	20050601770	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601772	20050601772	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601774	20050601774	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601776	20050601776	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601778	20050601778	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601780	20050601780	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601782	20050601782	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601784	20050601784	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601786	20050601786	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601788	20050601788	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601790	20050601790	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601792	20050601792	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601794	20050601794	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601796	20050601796	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601798	20050601798	000104	15	20050601	検
0001	0001	20050601800	20050601800	000104	15	20050601	検

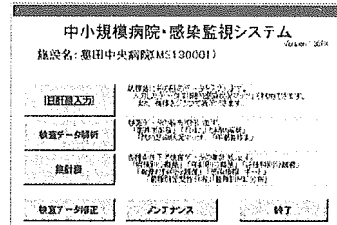
(ウ) 前バージョンの削除を行った。



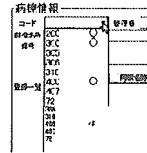
(エ) 新バージョンのインストールを行った。



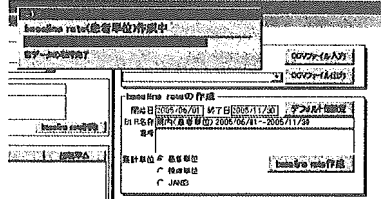
(オ) R4を起動した。



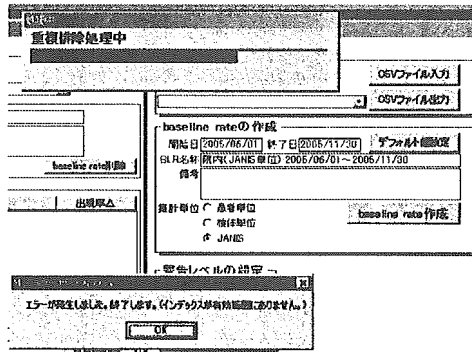
(カ) 病棟情報の設定で病棟名の対応のない病棟コードがあることを確認した。病棟別分離菌の集計を行い、それぞれのコードの入力が数検体～数十検体有ることを確認した。



(キ) ベースラインレートの作成を行った。



(ク) JANIS単位のベースラインレートの作成でエラーが出た。当該のエラーは作業の最後でもう一度試行したが再現された。



NOSS株式会社 中様と連絡をとり、DBを持ち帰ることにした。このエラーが出た後はアプリが反応しなくなった。致命的なエラーと考えた。また、集計に失敗したにもかかわらず、このリストは登録されていたため、削除を行った。



(ケ) 問題菌リストの出力を行った。主治医が入力されていないことが分かった。江東微研様に送信の可否について片山様から問い合わせることになった。NOSS株式会社様からも問い合わせを希望。

II. 利用に関する実習、協議

- (ア) 片山様に、更新された機能を中心に利用法を説明した。
- (イ) 病棟コードの設定を行った。
- (ウ) 片山様が、手引き類を用いて、院内で監視してきた、MRSA, Serratia, P. aeruginosaなどを、監視菌として問題菌に登録した。
- (エ) 登録した問題菌を用いて、院内感染マップでリストを出

力した。
 (オ) 病院様で検出頻度が高いのではないかと心配されていた菌について、実際に検出状況調べ、感染情報レポートで耐性パターンを整理する操作を行った。
 (カ) これまで感染対策委員会に提出してきた情報は、全て、SHIPLから得られる模様。

全体として、実用レベルで稼働している状態であると判断した。

平成18年2月10日(金)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』に係る、中小規模病院感染症監視システム開発の打ち合わせ。

日時:平成17年4月14日(木) 午後2時から午後6時30分
場所:群馬県高崎市中央町886 医療法人社団 日高会 日高病院 検査室
出席者:日高病院検査室 八束 真一 技師長、友松 技師、群馬大学 藤本 謙平等

- 1) 中小規模病院感染症監視システムの検査会社との通信に関する設定
 - 2) 同1.の動作確認
 - 3) 中小規模病院感染症監視システムの病院情報の設定
 - 4) 中小規模病院感染症監視システムの動作検証
 - 5) 中小規模病院感染症監視システムの運用と、有効利用に関する打ち合わせ
 - 6) その他
- 1) 中小規模病院感染症監視システムの検査会社との通信に関する設定
ログインの設定がされていない。検査会社様(ピー・エム・エル様)PCへのログイン用ID、パスワードを入力し通信が開始した。
- 2) 検査データ修正・検索画面で4月12日提出の検体まで確認が出来た。
- 3) 中小規模病院感染症監視システムの病院情報の設定
診療科、病棟の設定を行った。

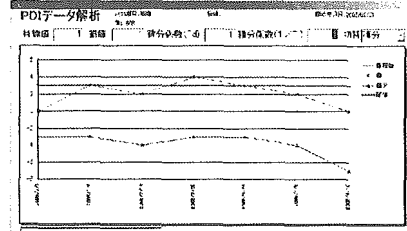
(ア) 診療科
本施設は診療科をJANISコードで受信せず予備領域拡張中の診療科を用い、
《診療科の各症候群の診療科コードマッピングを明確にするために、既設用のコード表を作成して、このコードと項目IDの診療科をマスターとし、利用する各症候群の診療科コードは逐次追加していく。マスターは最新検査プログラムと同期して更新されている。検査データ修正・検索の検査データ入力の際当該タブには診療科コードの欄が無く、どのようなコードが送られてきているか不明であった。フインガリンク様と連絡をし、SQLサーバー、エンタープライズマネージャーから内容を確認した(SHIPLEB100.dat検体)。設定を行った。診療科コードに健診(ドック)のコードがないのが不便であった。

(イ) 病棟
病棟(診療科も)は、マスターの整備がされていないと検査データ修正・検索では空欄になってしまう。そのため、マスター整備前に受信データの内容を当該プログラムで確認することは出来ない。SQLサーバー、エンタープライズマネージャーから内容を確認した(SHIPLEB100.dat検体)。病棟の設定を行った。同一病棟が2つの名前で送られてきていることがあることが分かった。とりえず、別の病棟

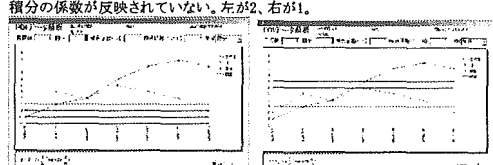
として登録したが、n対1の対応も考える必要がある。

4) 動作検証

- (ア) 日計表入力以外の機能を確認した。
- (イ) 菌の異常集積は機能しているようである。
- (ウ) PDIによる傾向解析は画面の切り替わりが一貫せず問題がある。下の図は、PDI正値の表示から積分に切り替えた後であるが、入力窓に表示されている目標値、閾値と、グラフが一致しない。



次の例では、



積分の係数が反映されていない。左が2、右が1。
係数が保存されるが、何によって条件分けされて保存されているのかははっきりしない。

- (エ) 感染状況マップは正しく動作するようである。問題菌、起原因菌が「+」を1つ増やしてあるのが利用価値を下げているようである。問題菌のうちどの問題菌が絞れるようにする(たとえばリストからMRSAを絞る)、あるいは、その場所のdouble clickで具体的な菌のリストが得られるようにするなどの工夫が必要になるだろう。現行のま

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 36 / 108

までは、「これって何に使うの？」と言われそうである。

- (オ) 年間推移表は正しく表示されているようである。起原因菌のところを下痢(または、発熱または発疹)を選び、検査材料指定無しで集計すると、非常に多くの菌がプロットされる。材料の指定がない場合に、検査材料によって、常在菌を除くフィルターが掛からないことが原因ではないかと考える。集計表出力にも共通している。材料の指定が無くて、検体側で材料が分かれば、その材料と結びついた常在菌は集計から省くことは可能であるので、集計法を改善する必要がある。
 - (カ) 年齢別分離菌の列表示設定がdefaultで入っていない。列数が10までで、これは、JANISの分類数と同じである。数個(5~6)の拡張が出来るようにするのが良いだろう。
 - (キ) 病棟別菌検出状況は正しく集計されているようである。
 - (ク) 感受性分布は正しく集計されているようである。
 - (ケ) MIC分布、 $\geq \leq$ などが別々の表に集計されるのは不便である。別々の表の他に、連続的に一つの表にした物を「目で見える用」に出力して欲しい。
 - (コ) 感染情報レポートは、同じ検体がふって表示されレポートが4つ出力された。検索に長時間かかる現象も見られ不具合が示唆された。また、検体番号は表示されるが、提出日が表示されない。検体番号に提出日が含まれていない施設もある可能性があり、提出日または採取日を表示するように改善が必要である。
- | | | |
|------------------|----------|---------------------|
| rep感染情報レポート1.mdi | 172.49KB | 2006/04/14 10:18:44 |
| rep感染情報レポート2.mdi | 176.98KB | 2006/04/14 16:20:40 |
| rep感染情報レポート3.mdi | 177.43KB | 2006/04/14 16:23:54 |
| rep感染情報レポート4.mdi | 162.95KB | 2006/04/14 16:24:40 |

菌検出レポート - Staphylococcus aureus (MRSA) (150)

検体番号	検体	検出	検出日	検出
43JA	検査	0		
200603100419255	検査	0		
200603170419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603100419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		
200603150419255	検査	0		
43JA	検査	0		
200603150419255	検査	0		

- 5) 八束技師と、運用、データの利用法について協議した。
- (ア) 日計表の入力は看護師の協力が得られるかどうか検討する必要がある。
- (イ) 病棟別の分離菌、(動作不良であるが)感染情報レポート、感受性のレポート、菌の異常集積などを中心に利用価値が高そうである。
- (ウ) 是非、研究班終了後も利用したい。という意見を聞くことが出来た。

以上、
平成17年4月14日(木)
群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

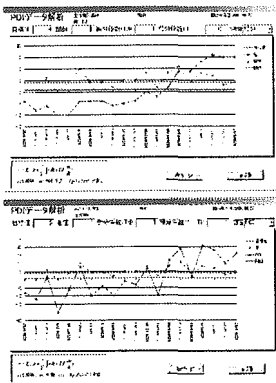
資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 37 / 108

用に、DBを複写させて頂いた。(八東技師から改めて許可を頂いた。)

解析の性質から、期間の入力でdefaultの解析開始日は、前回の開始日を覚えておくようにするか、1週間程度遡った日にするのが適当だろう。

B. PDIによる傾向分析

正常に機能した。積分において係数を0.1にしてもV1.10では正常に表示されることを確認した。また、右の図に置いて、2005年に入ってから、目標値の4を超える期間が長いことが値からだけでは注意を払わないと分からないが、積分値を用いると明瞭に明らかになることが示された。defaultの条件で目標値だけ変え、PDI正値で見ても、本年に入って増加傾向があることが良くpickupされている(右のしたの図)。



C. 感染症マップ

正常に機能していた。

(イ)データの修正

IDの入力がない。同一患者の重複処理を行うことが出来ない。カルテ番号はuniqueだと宣言することで、これをIDとして用いるように検査会社様に連絡を(フィンガリンク社から)して頂くことにした。

患者番号	検査項目	検査結果	ID	カルテ番号
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420
11101	11101	2005050419166		20050420

2. V1.11へのupdate

① updateは正常に終了した。

② V1.12での動作検証

(ア)検査データ解析

A. 菌の異常集積は

正常に機能した。

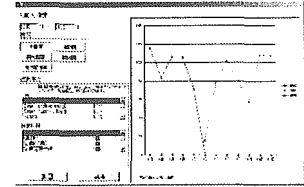
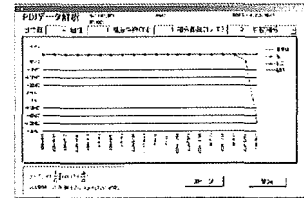
(集計漏れがあるのは同様)。

B. PDIは、積分で係数を0.1にすると異常な数字が表示される他の施設と共通

の現象が見られた。

C. 年間推移表も正常に機能した。

3. 活用について調査、お打ち合わせ
 - ① 菌の異常集積、感染情報レポートなどについて、もう一度利用の流れを追った。
 - ② 今後の予定について説明した。7月の説明会でプレゼンテーションをお願いした。
4. その他
 - ① 菌の異常集積で外來のデータの取り扱いがどのようにされているか明らかにする必要がある。
 - ② プリンターがあると良いとの希望があった。(手配した。)



以上

平成 17 年 5 月 28 日(土)
群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

付録1)アプリケーションのログ(5月分)

種類	日時	ソース	分類	イベント	ユーザー	コンピュータ
情報	2005/05/27 8:50:15	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/27 0:00:32	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/28 0:00:32	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/28 0:00:31	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/24 0:00:30	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/23 0:00:30	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/22 0:00:29	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/21 0:00:29	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 20:01:42	Symantec AntiVirus	なし	16	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 20:01:41	Symantec AntiVirus	なし	7	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 18:18:18	AP/FP/Agent	なし	1004	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:43	Symantec AntiVirus	なし	14	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:33	Microsoft Search	Search Service	1003	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:32	MSSQL SERVER	(7)	18002	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:29	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:29	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
警告	2005/05/20 11:09:29	MSSQL SERVER	(8)	19011	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:29	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:27	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:27	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:20	AP/FP/Agent	なし	1002	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:26	AP/FP/Agent	なし	1001	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:25	EventAgent	なし	2018	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:22	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:15	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:14	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:13	MSSQL SERVER	(2)	17176	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:13	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:13	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:08	MSDTC	SVC	4099	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:03	ccEvtMgr	なし	1	SYSTEM	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:02	ccEvtMgr	なし	28	SYSTEM	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:02	ccSetMgr	なし	1	SYSTEM	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:01	ccSetMgr	なし	28	SYSTEM	7382K1X
情報	2005/05/14 12:45:34	MSSQL SERVER	(2)	17055	N/A	7382K1X
情報	2005/05/14 12:45:28	AP/FP/Agent	なし	1000	N/A	7382K1X
情報	2005/05/14 0:00:17	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/13 20:01:51	Symantec AntiVirus	なし	16	N/A	7382K1X
情報	2005/05/13 20:01:50	Symantec AntiVirus	なし	7	N/A	7382K1X
情報	2005/05/13 18:32:18	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/13 0:00:09	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/12 18:31:42	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/12 0:00:04	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/11 18:32:20	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/11 0:00:59	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/10 18:31:33	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/10 0:00:59	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/09 18:32:44	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/09 0:00:51	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/08 18:31:29	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/08 0:00:51	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/07 18:35:31	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/07 0:00:41	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/06 20:01:10	Symantec AntiVirus	なし	16	N/A	7382K1X
情報	2005/05/06 20:01:10	Symantec AntiVirus	なし	7	N/A	7382K1X

付録2)システムのログ(4月末~5月分)

種類	日時	ソース	分類	イベント	ユーザー	コンピュータ
情報	2005/05/08 18:34:17	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/08 18:18:01	AP/FP/Agent	なし	1004	N/A	7382K1X
情報	2005/05/08 0:00:34	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/08 18:34:08	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/08 0:00:29	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/04 18:33:52	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/04 0:00:27	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/03 18:34:14	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/03 0:00:25	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/02 18:34:10	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/02 0:00:23	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/01 18:34:02	MSSQL SERVER	(6)	17055	Administrator	7382K1X
情報	2005/05/01 0:00:12	MSSQL SERVER	(2)	17177	N/A	7382K1X
情報	2005/05/27 10:16:59	Removable Storage Service	なし	134	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:32	SNMP	なし	1001	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:09:17	Server Administrator Instrumentation Service	1008	N/A		
情報	2005/05/20 11:09:17	Server Administrator Instrumentation Service	1001	N/A		
情報	2005/05/20 11:09:17	Server Administrator Instrumentation Service	1000	N/A		
情報	2005/05/20 11:08:40	E1000	なし	33	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:08:58	eventlog	なし	6005	N/A	7382K1X
情報	2005/05/20 11:08:58	eventlog	なし	6009	N/A	7382K1X
情報	2005/05/14 12:45:35	eventlog	なし	6006	N/A	7382K1X
情報	2005/05/14 12:45:31	Server Administrator Instrumentation Service	1009	N/A		
情報	2005/04/22 11:38:54	Removable Storage Service	なし	135	N/A	7382K1X
情報	2005/04/22 11:38:53	Removable Storage Service	なし	160	N/A	7382K1X
情報	2005/04/22 10:35:21	Removable Storage Service	なし	134	N/A	7382K1X
情報	2005/04/14 16:57:11	SNMP	なし	1001	N/A	7382K1X
情報	2005/04/14 16:56:53	Server Administrator Instrumentation Service	1008	N/A		
情報	2005/04/14 16:56:53	Server Administrator Instrumentation Service	1001	N/A		
情報	2005/04/14 16:56:53	Server Administrator Instrumentation Service	1000	N/A		
情報	2005/04/14 16:56:16	E1000	なし	33	N/A	7382K1X

『厚生労働科学研究費補助金(医療技術評価総合研究事業)「院内感染の防止のための監視体制の整備、細菌検査室の機能向上に関する研究」』に係る、中小規模病院感染症監視システム開発の打ち合わせ。

日時:平成 17 年 7 月 1 日(金) 午後 2時から午後 4時

場所:群馬県高崎市巾尾町 886 医療法人社団 日高会 日高病院 検査室

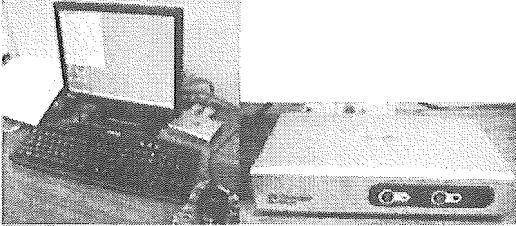
出席者:日高病院検査室 八東 真一 技師長、島田 技師、群馬大学 藤本 敬事等;

- 1) 日高病院感染症監視システムの稼働状況調査
- 2) ID 送信開始後の動作検証
- 3) 活用についての調査、打ち合わせ
- 4) その他

1) 日高病院感染症監視システムの稼働状況

(ア) PC切り替え器の設置状況

PC切り替え器(Corega PC Changer C6-PC2KVM)が設置されていた。切り替え先の内の一つのPCは空きになっており、一方に SHIPL のサーバーが接続されていた。コントロールキーを 2 回連続して押すことによってマウス、キーボード、ディスプレイが有効になるように設定されていた。キーボード、マウスを不用意にさわることによって起こる誤動作の防止に有効な方法と考えた。



(イ) 通信プログラムは正常に動作していた。

本日のデータの受信も正常に行われていた。

2) ID 送信開始後の動作検証

(ア) 2005 年 1 月 1 日以降のデータの ID にカルテ番号が適用されていることを検査データ修正・検索画面で確認した。

検査条件	ID	生年月日	検索	変更
検体番号		カカ氏名	条件設定	削除
検査材料		検体提出日	全条件クリア	リスト内検索
報告名		診療科	新規登録	新規検索

患者ID	検体提出日	検体番号	ID	カルテ番号	カカ氏名	検体提出日	検査項目	結果
11001	11001	2005000418581	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/01	MRSA	陽性
11002	11001	2005000418582	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/02	MRSA	陰性
11003	11001	2005000418583	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/03	MRSA	陽性
11004	11001	2005000418584	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/04	MRSA	陰性
11005	11001	2005000418585	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/05	MRSA	陽性
11006	11001	2005000418586	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/06	MRSA	陰性
11007	11001	2005000418587	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/07	MRSA	陽性
11008	11001	2005000418588	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/08	MRSA	陰性
11009	11001	2005000418589	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/09	MRSA	陽性
11010	11001	2005000418590	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/10	MRSA	陰性
11011	11001	2005000418591	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/11	MRSA	陽性
11012	11001	2005000418592	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/12	MRSA	陰性
11013	11001	2005000418593	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/13	MRSA	陽性
11014	11001	2005000418594	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/14	MRSA	陰性
11015	11001	2005000418595	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/15	MRSA	陽性
11016	11001	2005000418596	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/16	MRSA	陰性
11017	11001	2005000418597	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/17	MRSA	陽性
11018	11001	2005000418598	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/18	MRSA	陰性
11019	11001	2005000418599	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/19	MRSA	陽性
11020	11001	2005000418600	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/20	MRSA	陰性

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 42 / 108

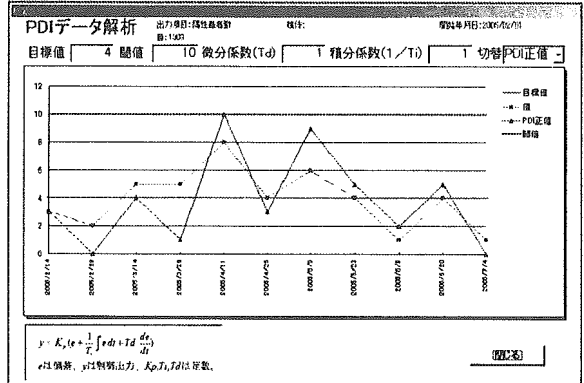
患者ID	検体提出日	検体番号	ID	カルテ番号	カカ氏名	検体提出日	検査項目	結果
11001	11001	2005000418581	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/01	MRSA	陽性
11002	11001	2005000418582	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/02	MRSA	陰性
11003	11001	2005000418583	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/03	MRSA	陽性
11004	11001	2005000418584	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/04	MRSA	陰性
11005	11001	2005000418585	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/05	MRSA	陽性
11006	11001	2005000418586	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/06	MRSA	陰性
11007	11001	2005000418587	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/07	MRSA	陽性
11008	11001	2005000418588	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/08	MRSA	陰性
11009	11001	2005000418589	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/09	MRSA	陽性
11010	11001	2005000418590	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/10	MRSA	陰性
11011	11001	2005000418591	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/11	MRSA	陽性
11012	11001	2005000418592	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/12	MRSA	陰性
11013	11001	2005000418593	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/13	MRSA	陽性
11014	11001	2005000418594	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/14	MRSA	陰性
11015	11001	2005000418595	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/15	MRSA	陽性
11016	11001	2005000418596	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/16	MRSA	陰性
11017	11001	2005000418597	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/17	MRSA	陽性
11018	11001	2005000418598	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/18	MRSA	陰性
11019	11001	2005000418599	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/19	MRSA	陽性
11020	11001	2005000418600	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/20	MRSA	陰性

(イ) 菌の異常集積、PDI 解析で同一患者の重複処理が機能していることを確認した。

患者ID	検体提出日	検体番号	ID	カルテ番号	カカ氏名	検体提出日	検査項目	結果
11001	11001	2005000418581	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/01	MRSA	陽性
11002	11001	2005000418582	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/02	MRSA	陰性
11003	11001	2005000418583	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/03	MRSA	陽性
11004	11001	2005000418584	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/04	MRSA	陰性
11005	11001	2005000418585	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/05	MRSA	陽性
11006	11001	2005000418586	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/06	MRSA	陰性
11007	11001	2005000418587	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/07	MRSA	陽性
11008	11001	2005000418588	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/08	MRSA	陰性
11009	11001	2005000418589	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/09	MRSA	陽性
11010	11001	2005000418590	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/10	MRSA	陰性
11011	11001	2005000418591	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/11	MRSA	陽性
11012	11001	2005000418592	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/12	MRSA	陰性
11013	11001	2005000418593	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/13	MRSA	陽性
11014	11001	2005000418594	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/14	MRSA	陰性
11015	11001	2005000418595	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/15	MRSA	陽性
11016	11001	2005000418596	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/16	MRSA	陰性
11017	11001	2005000418597	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/17	MRSA	陽性
11018	11001	2005000418598	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/18	MRSA	陰性
11019	11001	2005000418599	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/19	MRSA	陽性
11020	11001	2005000418600	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/20	MRSA	陰性

患者ID	検体提出日	検体番号	ID	カルテ番号	カカ氏名	検体提出日	検査項目	結果
11001	11001	2005000418581	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/01	MRSA	陽性
11002	11001	2005000418582	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/02	MRSA	陰性
11003	11001	2005000418583	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/03	MRSA	陽性
11004	11001	2005000418584	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/04	MRSA	陰性
11005	11001	2005000418585	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/05	MRSA	陽性
11006	11001	2005000418586	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/06	MRSA	陰性
11007	11001	2005000418587	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/07	MRSA	陽性
11008	11001	2005000418588	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/08	MRSA	陰性
11009	11001	2005000418589	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/09	MRSA	陽性
11010	11001	2005000418590	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/10	MRSA	陰性
11011	11001	2005000418591	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/11	MRSA	陽性
11012	11001	2005000418592	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/12	MRSA	陰性
11013	11001	2005000418593	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/13	MRSA	陽性
11014	11001	2005000418594	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/14	MRSA	陰性
11015	11001	2005000418595	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/15	MRSA	陽性
11016	11001	2005000418596	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/16	MRSA	陰性
11017	11001	2005000418597	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/17	MRSA	陽性
11018	11001	2005000418598	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/18	MRSA	陰性
11019	11001	2005000418599	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/19	MRSA	陽性
11020	11001	2005000418600	20050004	20050004	山田太郎	2005/07/20	MRSA	陰性

PDI 解析 MRSA 患者数



PDI 解析 MRSA 検体数

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 43 / 108

病棟マスター、診療科マスターに不備が見付かった。下の図は、それぞれ、DBから抽出した(受診した)病棟、診療科のカテゴリと、マスターの状況を示したものである。マスターの整備をお願いした。今回も、1対1の対応の可否、予測される動作が問題となった。

コード	病棟名称	診療科
4S	4S(4階看護棟)	大石
4H	4H(4階看護棟)	大石
4C	4C(4階看護棟)	大石
4E	4E(4階看護棟)	大石
4F	4F(4階看護棟)	大石
4G	4G(4階看護棟)	大石
4I	4I(4階看護棟)	大石
4J	4J(4階看護棟)	大石
4K	4K(4階看護棟)	大石
4L	4L(4階看護棟)	大石
4M	4M(4階看護棟)	大石
4N	4N(4階看護棟)	大石
4O	4O(4階看護棟)	大石
4P	4P(4階看護棟)	大石
4Q	4Q(4階看護棟)	大石
4R	4R(4階看護棟)	大石
4S	4S(4階看護棟)	大石
4T	4T(4階看護棟)	大石
4U	4U(4階看護棟)	大石
4V	4V(4階看護棟)	大石
4W	4W(4階看護棟)	大石
4X	4X(4階看護棟)	大石
4Y	4Y(4階看護棟)	大石
4Z	4Z(4階看護棟)	大石

② 検体別分離菌でリストされる検体種別とデータ

検体種別	データ
1114	2005/07/27
1115	2005/07/27
1116	2005/07/27
1117	2005/07/27
1118	2005/07/27
1119	2005/07/27
1120	2005/07/27
1121	2005/07/27
1122	2005/07/27
1123	2005/07/27
1124	2005/07/27
1125	2005/07/27
1126	2005/07/27
1127	2005/07/27
1128	2005/07/27
1129	2005/07/27
1130	2005/07/27
1131	2005/07/27
1132	2005/07/27
1133	2005/07/27
1134	2005/07/27
1135	2005/07/27
1136	2005/07/27
1137	2005/07/27
1138	2005/07/27
1139	2005/07/27
1140	2005/07/27
1141	2005/07/27
1142	2005/07/27
1143	2005/07/27
1144	2005/07/27
1145	2005/07/27
1146	2005/07/27
1147	2005/07/27
1148	2005/07/27
1149	2005/07/27
1150	2005/07/27
1151	2005/07/27
1152	2005/07/27
1153	2005/07/27
1154	2005/07/27
1155	2005/07/27
1156	2005/07/27
1157	2005/07/27
1158	2005/07/27
1159	2005/07/27
1160	2005/07/27
1161	2005/07/27
1162	2005/07/27
1163	2005/07/27
1164	2005/07/27
1165	2005/07/27
1166	2005/07/27
1167	2005/07/27
1168	2005/07/27
1169	2005/07/27
1170	2005/07/27
1171	2005/07/27
1172	2005/07/27
1173	2005/07/27
1174	2005/07/27
1175	2005/07/27
1176	2005/07/27
1177	2005/07/27
1178	2005/07/27
1179	2005/07/27
1180	2005/07/27
1181	2005/07/27
1182	2005/07/27
1183	2005/07/27
1184	2005/07/27
1185	2005/07/27
1186	2005/07/27
1187	2005/07/27
1188	2005/07/27
1189	2005/07/27
1190	2005/07/27
1191	2005/07/27
1192	2005/07/27
1193	2005/07/27
1194	2005/07/27
1195	2005/07/27
1196	2005/07/27
1197	2005/07/27
1198	2005/07/27
1199	2005/07/27
1200	2005/07/27

上記の検体別分離菌の集計期間の検体にその他材料、その他ドレーンが含まれた。菌の分離が無かったために、計上されていないのか、それ以外の問題が確かめる必要があると考えた。DBを復元して持ち帰った。

(オ) 病棟のない入院患者が複数見付かった。

患者ID	病棟	診療科	性別	年齢	入院日数
0000001		内科	男	70	1
0000002		内科	女	65	1
0000003		内科	男	75	1
0000004		内科	女	60	1
0000005		内科	男	72	1
0000006		内科	女	68	1
0000007		内科	男	71	1
0000008		内科	女	66	1
0000009		内科	男	73	1
0000010		内科	女	69	1

入力落ちか、あるいは、系統的な問題か日高病院様で調査をして頂くことにした。
(カ) 菌の異常集積で指摘されて、菌株別分離菌で集計されない菌種があることが分かった。

患者ID	病棟	診療科	菌種	検体種別	検出日時	検出部位	検出回数
0000001		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000002		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000003		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000004		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000005		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000006		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000007		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000008		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000009		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1
0000010		内科	Neisseria sp.	尿	2005/07/27	尿道	1

3S で Neisseria sp. が指摘されているが、集計を掛けると対象データが存在しないと表示される。

(9月2日 NOSS Corp.での検証で再現された。現在、感受性検査をしていないものが集計から除外されてしまう現象があることが分かった。対策等について、議論を行い、次期バージョンで解決を行うことになった。)

(キ) 菌の異常集積で指摘された菌が検出された患者のリストをえる方法について、感染情報レポートだと、感受性検査がないとリストされない可能性があり、適当な方法(たとえば、感染情報レポートで、「感受性 あるなし」を選べるようにする等が必要となる可能性が示唆された。(9月2日 NOSS Corp.での話し合いで、これを次期バージョンの仕様に入れることを確認した。)

- 2) 病院様説明会(9月8日)での発表準備
- (ア) 日高病院八東様より問題点のリスト(本文書に添付)を頂いた。菌の異常集積、PDIの意味合いが分からない。集計表で菌コードのみで表示されるものが不便である。
- (イ) プレゼンテーション用テンプレートに基づいて、内容を検討した。

平成 17 年 9 月 2 日(金)
群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

日高病院、八東様よりのレポート。
(9月8日これを元にした報告がある予定)

SHIPL について

I 日計表
情報(入院・退院・発熱・下痢等)を入力していないため利用していない。

II 検査データ解析
①菌異常集積
・LEVEL 分類の集積の一覧として利用している。
・要望としては、LEVEL 分類の基準が明確化されるとよい。

②PDI による傾向解析
・閾値、微分係数、積分係数の基準となる値が不明である。
・上記の標準化された値を知ることができると非常に利用価値が高いと思える。

③院内感染状況マップ
・発熱、下痢等の情報が入手困難である。(医師、看護士の協力が不可欠)
また、協力が得られてもマニュアル入力となると検査室の負担が多となり、現実的には不可能に近い。
理想としては、On Line 化されることが望ましい。
・上記が簡便化 (On Line 化) されると病棟、科別が一目でわかるため利用価値の高いものと思える。

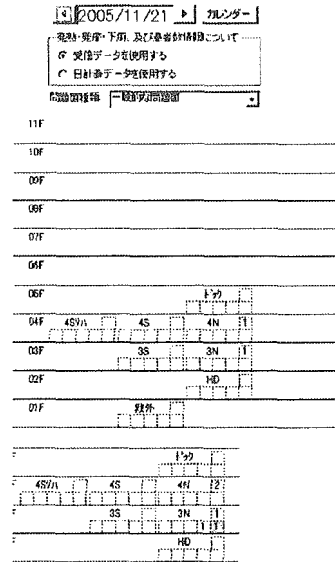
④年間推移表
・年毎の推移がグラフ化されているため分かり易い。
・病棟、科別等の選択肢があると、より便利と思います。

III 集計表

2005/11/18 17:20	接続先 [11001 : BNC]	接続先ファイルが存在しません。
2005/11/18 18:34	[自動設計処理完了]	
2005/11/18 18:34		バックアップが完了しました。
2005/11/21 17:20	接続先 [11001 : BNC]	接続先ファイルが存在しません。
2005/11/21 18:38	[自動設計処理完了]	
2005/11/21 18:38		バックアップが完了しました。
2005/11/22 17:20	接続先 [11001 : BNC]	接続先ファイルが存在しません。
2005/11/22 18:38	[自動設計処理完了]	
2005/11/22 18:38		バックアップが完了しました。
2005/11/28 17:00	接続先 [11001 : BNC]	エラーが発生しました。接続先の状態をご確認ください。
2005/11/28 17:20	接続先 [11001 : BNC]	エラーが発生しました。接続先の状態をご確認ください。
2005/11/28 17:28	接続先 [11001 : BNC]	エラーが発生しました。接続先の状態をご確認ください。
2005/11/28 17:30	接続先 [11001 : BNC]	エラーが発生しました。接続先の状態をご確認ください。

4. 院内医療状況マップで患者数だけのものでありますがこれは何でしょうか。日計表の入力はありますか。

2006/03/06



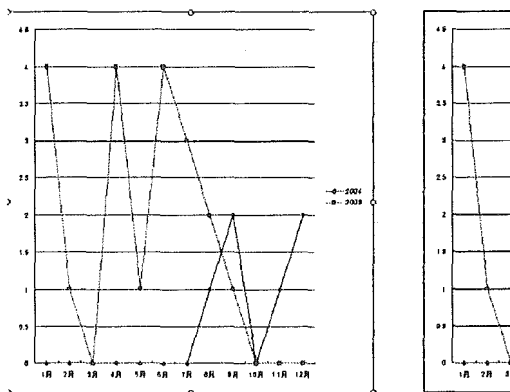
2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 52 / 108

2005/11/21		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

病棟	患者	入院	退院	転入	転出
3N 3N(3階南病棟)	0	0	0	0	0
3S 3S(3階南病棟)	0	0	0	0	0
4N 4N(4階南病棟)	0	0	0	0	0
4S 4S(4階南病棟)	0	0	0	0	0
4S/A 4S(4階南病棟)	0	0	0	0	0
HD 透析室	0	0	0	0	0
トング トング室	0	0	0	0	0
救外 救急外来	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0

5. 年間推移表で重複排除をしても同じグラフが表示されます。重複排除あり



2006/03/06

6. 検体別段階で同一患者の重複排除をしても同じ数字が得られます。

検体別段階	2005年01月~2005年12月	気管内挿入/咽頭拭液	その他呼吸器
Neisseria	55	1	4
α-Streptococcus	138	0	0
β-Streptococcus	0	0	0
γ-Streptococcus	15	1	4
Streptococcus agalactiae	8	0	1
Group β-Streptococcus	1	0	1
Streptococcus pneumoniae (PRSP)	2	0	0
Streptococcus pneumoniae (PSP)	3	0	0
Streptococcus pneumoniae (PSSP)	5	0	0
Enterococcus sp.	1	0	0
Enterococcus faecalis	8	0	0
Staphylococcus aureus	1	0	0
Staphylococcus aureus (MRSA)	55	6	3
Staphylococcus aureus (MSSA)	18	0	0
Staphylococcus coagulase negative (CNS)	7	0	2
Neisseria sp.	50	2	4
Moraxella (Branhamella) catenulata	7	0	0
Escherichia coli	7	0	0

2006/03/06

資料 2 協力施設の導入利用状況見分・訪問調査 53 / 108